

子どもたちが生きいき暮らす奈良を紡ぎます



ならつむ通信



vol.

3

特定非営利活動法人「青少年の自立を支える奈良の会」

平成 26 年 7 月 1 日発行

〒630-8114 奈良市芝辻町三丁目 5-19 TEL/FAX 0742-33-2006 E-mail:arannoe@kcn.jp

就任のごあいさつ

「光陰矢のごとし」と申しますが、昨年4月に奈良県で初めての援助ホーム「あらの家」がオープンされてから、あっという間に一年数ヶ月が経ちました。開設初年度は、当然のことながら、ホーム長以下スタッフ一同、何事も「初めての経験」であり、「山あり谷あり」どころか、疾風怒濤、波瀾万丈とも言える一年だったかと思えます。初代ホーム長：竹沢喜心先生のご苦勞、開設当初から頑張ってくれているスタッフの大変さ、それに強力な支えとなり骨身を惜しまず関わってくださった運営委員の方々、さらに食事ボランティアを始め、たくさんの家具や事務用品・什器類等を寄贈してくださったサポーターの皆様のおかげで、何とか2年目の春を迎えたというのが実感です。さらに、初年度（昨年）は赤い羽根共同募金会やタイガーマスク基金、奈良ソロプチミスト、奈良パイロットクラブ、長弓寺薬師院様等々、多くの団体からのご支援もいただき、繰り返しになりますが、多くの人の善意とご尽力によって支えられていることを思い知りました。

あらの家に来る子どもたち、あるいはいろいろな事情によって家に帰ったり、自立していったりしてあらの家から出て行った子どもたちも、本当にそれぞれ、様々な家庭の事情や背景を抱え、一人一人言うに言われぬ苦勞をしながら、いま・ここに生きているということをも実感いたしました。「人」という字は、支え合っていてできているということは、昔から言い習わされているところですが、まさに私自身を含めてそれを実感する日々です。

今春（平成26年4月）、初代の竹沢ホーム長から引き継ぎ、私がホーム長という大任を仰せつかりました。開設当初「ひとりひとりを大切に」「それぞれがかけがえのない大切な存在」なのだから、あらの家が「あたたかく、彼らにとって第二の“居場所”であるように」という気持ちでスタートしましたが、開設2年目を迎えて、あらためて、肝に銘じ、ここを新たにしていきたいと考えております。現在、アランにいる子どもたちは、どの子もかわいい、素直な子どもたちです。“自立”はまだ少し先になるかとは思いますが、皆それぞれに就労して、毎日を頑張っています。どうか、引き続き、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

自立援助ホーム あらの家
ホーム長 友廣 信逸

講演会のお知らせ

平成 26 年 8 月 3 日(日)
13時～ 奈良市音声館ホール

ママ応援プロジェクト

「子どもを愛するということ」
－ 虐待超えて －

講師 島田 妙子 さん

5月25日（日）西部公民館において 平成25年度NPO法人青少年の自立を支える奈良の会の総会を終えることができました。会員数18名のうち出席者8名、委任状10名で会の成立を確認し、友廣理事長の挨拶に始まりました。事業報告・決算報告等各審議事項が承認され、西嶋議長のスムーズな進行のもと、速やかに終了しました。詳細は次ページに記載しました。

平成 25 年度 事業報告

1 入退所状況 入所 4名 退所 3名

2 スタッフ体制 ホーム長 1名 職員 3名

3 入所者への生活支援、指導、就労支援

4 施設管理業務（日誌、行事表記入、業務表、援助記録、財務管理、電話対応等）

5 運営のための会議

運営委員会 毎月第3木曜 役員会 月1回例会 スタッフ会議 月1回

6 職員研修

新任研修（権利擁護 児童福祉事業 児童の理解 養育・支援 諸書類の取扱い等）
施設実習（児童自立支援施設）施設見学（措置機関 自立援助ホーム等）
研修会参加（全国自立援助ホーム協議会・奈良県主催等）

7 地域関係機関との連携

- ・自治会（自治会総会 連絡会 意見交換会）
- ・奈良県こども家庭相談センターとの連絡会・ケースカンファレンス
- ・ハローワーク・職場

8 相談事業 19回（電話相談・来所相談）

相談者：保護司、弁護士、他府県児童相談所、家庭裁判所、学校の教諭、一般

9 視察・見学の受け入れ

視察：県子ども家庭課、奈良市子ども未来部、こども家庭相談センター（中央・高田）家庭裁判所
見学：行政機関、報道機関、自治会関係、学校関係、企業、関係団体、一般（71回）

10 ボランティア受入

食事ボランティア 8人、宿泊ボランティア 6人を受け入れ協力を願った。

11 子どもの問題についての啓発活動

- 2013年 5月 ならつむの発行 送付
5月 11日 開所式 内覧会
7月 リーフレットの発行
10月 19日 （東京）目黒シティカレッジ 「（子どもたちの）生きる力」講演
10月 26日 市教育相談センター 「不登校を考える集い」講演
11月 16日 奈良いのちの電話相談員研修 「自己破壊行動について」講演
11月 19日 県人権講演会「不適應の子どもたちへの支援」講演
12月 9日 奈良マラソンにおいて 『ネットワーク絆』・奈良県子ども家庭課と協働し
「子どもの虐待防止キャンペーン」に参加
12月 奈良県人権情報誌「かがやき・なら」に掲載される。
ならつむ2号発行 送付
- 2014年 2月 7日 奈良家裁少年友の会 研修会講演
2月 24日 奈良市小中学校教頭会人権研修会講演
2月 28日 県教育研究所 「問題を抱える子どもたち」教育相談員研修講演

平成 25 年度活動計算書

平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月

I 経常収益		
1、受取会費	175,000	
2、受取寄付金	1,053,992	
3、受取助成金等	18,585,558	
4、事業収益	176,510	
5、その他収益	1,415	
経常収益計		19,992,475
II 経常費用		
1、事業費		
(1) 人件費計	7,001,353	
(2) その他経費	4,541,550	
事業費計		11,542,903
2、管理費		
(1) 人件費	179,499	
(2) その他経費計	963,281	
管理費計		1,142,780
経常費用計		12,685,683
当期経常増減額		7,306,792
III 経常外収益計		0
IV 経常外費用		
雑損失	23,253	
経常外費用計		23,253
税引前当期正味財産増減額		7,283,539
法人税、住民税及び事業税		279
当期正味財産増減額		7,283,260
前期繰越正味財産額		△ 13,737
次期繰越正味財産額		7,269,523

平成 25 年度は、
皆様のご協力により、
以上のような
収支となりました。
心より御礼
申し上げます。



社会福祉法人 大和育成園

園長 岡田 悟

児童養護施設は、親のさまざまな問題や不慮の事故等により親と離れざるをえない事情や、不適切な養育を受けているなどの事情により、保護者による養育が困難な子どもたちが生活する場所です。職員と子どもが共感し合い、思いやりの心を涵養できるよう環境を整える事にその意義があります。しかし、施設の生活は指示語が飛び交う空間です。職員も、子ども一人ひとりに思いを伝えたいものの、年齢差や性格、気質が異なる子どもたちを少数の職員で送り出す戦いでしかなく、笑顔で送り出しているのは、職員の自己満足の笑みでしかないのかもしれないと思ってしまうのです。

児童養護施設では、子ども達と一緒に生活をする職員の専門性を常に問われているのですが、基本としては職員の人数は少ない状況であると思っています。基本的に国の定めた配置基準で決まっており、3歳未満児で2人につき1人、3歳から小学校入学前までで4人につき1人、小学生以上では5.5人に1人と定められています。職員は交代制の勤務であり、日常、一人で担当する子どもの数は10名位以上が常で、いろいろな形態があるものの専門性を発揮し子どもたちに安心を与え、安全で子どもと職員が共感できる空間創りには職員の育成も大切ですが最低基準は大きなハードルとなっていると思います。施設職員には子どもと一緒に宿直をする勤務日があり不規則な生活となり、体力的な負担は大きく、志を持った若い人も挫折することが多々見られます。児童養護施設で働きたいとその施設の扉を叩く人の多くは熱意があり、一人一人の子どもたちに寄り添って“自分が子どもたちに幸せを届けたい”と職員は願うのですが、家庭養育を続けることが不適切であることが理由で施設を利用せざるを得ない子どもたちは、多くの課題や問題を持ち十分なケアが難しい状況が起きています。仕事の厳しさや、子どもたちのケアを十分に出来ないというストレスもあり、児童養護施設の直接ケア職員(児童指導員、保育士と個別対応職員)の平均勤続年数は8年と、決して長くありません。(平成19年度 社会的養護に関する実態調査中間報告書より) 職員は、家庭の事情、新たなキャリアの選択など、さまざまな事情で辞めていくのですが、バーンアウト(燃え尽き症候群)が理由の場合も少なくありません。

次号へつづく

支援者の皆さまへ

物心両面から多大なるご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございました！
お名前は順不同。すべて敬省略)

正 会 員

高橋みのり／辻井啓之／松井第二／野島佳枝／友廣信逸／角林妙子／田辺美紀／前田泰宏／西村庄一／浜田進士／酒井孝江／西嶋嘉彦／勢渡満知子／西村聡恵／藤戸輝子／竹沢喜心／藤井直子／森久栄

賛助会員 ご寄付下さった方

稲垣三千穂／山崎靖子／清水俊行／末松保喜／前田ひろみ／千賀茂世／生田周二／中島秀／高橋修／野澤知子／齋藤恵子／坂井容子／綱脇恵章・芳江・靖恵／矢追義頼／佐竹一人／三本隆行／辻井正／柳田安代／青山由貴子／柏木裕斗／本明子／西久保公成／阿部一郎／中江淳子／真田まゆみ／東俊男／中村哲治／中田公子／西嶋敦子／叶原土筆／押切宣裕／平原亮／瀬渡比呂志／有信いづみ／小寺美佐江／兒玉修一／畑俊治／星田久仁子／大垣芳美／大熊隆／和泉孝／藤原正範／才村眞理／吉田育子／本明子／奈良マラソンにて沢山の方より募金／匿名の方

団 体 会 員

高田子どもを支える有志／奈良弁護士会有志／長弓寺 薬師院／国際ソロプチミスト／奈良まほろば／奈良家裁少年友の会有志一同

学 生 会 員

山口拓人

物品をくださった方

野島佳枝／百瀬典／シャン・ドゥ・メール／椎葉聖智／今中／林／広本／鳥居／吉松／竹内／憐和田塗建 竹内（美味っ子本舗）／道上ゆみ／土屋美枝子／富永光英／里地佳／松井ご夫婦／カーブス 弓仲香織／青木ご夫婦／川真田弁護士／そのほか、沢山の皆様

来訪者のみなさま ありがとうございます！

NPO法人青少年の自立を支える奈良の会

理事長：友廣信逸 **理事**：岡田悟（児童養護施設大和育成園園長）／竹沢喜心（児童虐待防止協会監事）／中川雅己（児童養護施設いかるが乳児院院長）／西嶋嘉彦（児童養護施設清心寮寮長）／浜田進士（子どもの権利条約総合研究所関西事務所長）／勢渡満知子（思春期保健相談士） **監事**：平井光治（NPO法人童心の会代表） **顧問**：岸岡靖郎（児童養護施設大和育成園次長）
設立賛同者：生田周二（奈良教育大学教授）／才村眞理（帝塚山大学教授）／島本太香子（奈良大学教授・産婦人科医）／田辺美紀（奈良弁護士会）／辻井啓之（奈良教育大学教授：内科医）／野島佳枝（奈良弁護士会）／廣井いずみ（奈良大学准教授）／藤原正範（鈴鹿医療科学大学教授）／松宮満（関西福祉科学大学教授）
※50音順

今年度も皆様のご協力をお願いいたします。

奈良市 芝辻町3丁目5-19

電話 0742-33-2006

自立援助ホーム「あらんの家」内

青少年の自立を支える奈良の会

口座番号

・郵便 00950-0-328932
トクヒ) 青少年の自立を支える奈良の会

賛助会員	年会費	3,000円
	学生会員	1,000円
	団体会員	10,000円

気長にお手伝いくださる方 大募集!!

子どもたちに社会経験をさせていただける

事業主様・自営業者様

NPO 法人運営ボランティア

(IT 詳しい方・お料理得意な方等)

編 集 後 記

昨年度の一年を振り返りますといろんなことがありました。今日、ようやく「ならつむ3号」を発行することができます。4月、新しい目が芽吹いて、いつまで続くのか途方もなく長く思えた冬であっても、必ず春が来て、あちこちに花が咲き乱れる。自然とは、何とも強く時に厳しく優しいことでしょう。人もそうであってほしいと願うばかりです。いろいろな形で「あらんの家」を巣立っていった若者たちの未来に幸多かれと願っています。こうやって一年、また一年と時が過ぎ去り、多くの若者を見送ることになります。私たちはまだまだ駆け出しの身ですので、未熟さ故にたくさんの方々にご迷惑をおかけしたりお世話になったりすると思います。この活動は子どものしあわせを願う皆様のご協力なしには成し得ないと思っています。

今年は悲しみも喜びに変えることができるような、そんな「あらんの家」にしたいと思います。多方面からのご支援をよろしくお願いいたします

運営者一同